

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・言語活動の充実を図ったことで、漢字や言葉に関する正答率が目標値を上回ったり、近い値に位置していたりしている。
- ・「漢字を読む」項目は、全ての学年で目標値を上回った。5学年は全ての項目が目標値を超えている。漢字の学習を日常化していく授業改善の成果である。

(2) 課題

- ・「文章を書く」項目は、目標値を超えていても近似値か、もしくは差が大きいのので「文章を書く力」の育成が課題である。
- ・目標値が低い児童は無回答の割合が高い。また最後の設問に無回答の割合が高い傾向にある。粘り強く学習に取り組んだり、見通しをもって設問に取り組んだりすることが課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	△「漢字を読む」「漢字を書く」は目標値を上回っている。 ▽その他の領域は全て目標値を下回っている。特に、考えとそれを支える事例との関係を明確に書くことや、指定された長さで文章を書くことに課題がある。	/	/
第5学年	△「文章を書く」領域で目標値を大きく超えていて昨年度の改善プランの成果が見える。 ▽近似値ではあるが、「漢字を書く」領域が目標値を下回ったので、授業改善プランに加えたい。	△「読むこと」については、物語文と説明文のどちらも前年度の結果を上回っている。 ▽考えと事例、情報と情報など、文章の中の関係性を理解し、正確に書くことに課題がある。	/
第6学年	△言語事項や「文章を書く」領域については目標値を超えた。昨年度の授業改善プランの成果が	▽言語事項については、前年度の結果を下回っている。特に、漢字の読み書き、慣用句、	△漢字についての項目の正答率が高い。 ▽構成を考えて書いたり、自分の考えを書いたり、

	見える。 ▽「説明文の内容を読み取る」領域が目標値を下回った。	修飾語、指示語の理解に課題がある。 ▽段落の役割を理解して書いたり、自分の考えを支える理由を明確にして書いたりする項目の正答率が低い。	たりする項目の正答率が低い。
--	------------------------------------	--	----------------

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 漢字を読むことや漢字を書くことは、目標値を超えている。 主語と述語の関係については、目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読むことや文章を書くことが目標値から大きく下回った。文章を要約したり、文章の構成を考えて書いたりする力を育成したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「文章を書く」領域で、無回答が増える。粘り強く設問に取り組むことが課題である。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 漢字及び言葉に関する項目は目標値を上回ったり、近似値に位置していたりする結果である。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生は、意見の相違点に着目して聞く設問で目標値を下回った。 6年生は、説明文の内容を読み取る設問で目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「文章を書く」領域で、無回答が増える。粘り強く設問に取り組むことが課題。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 言葉集めや文作りを通して、文字学習の基礎作りを行う。 学習した漢字は、習熟のためミニテストを繰り返して行う。 タブレット端末のアプリを活用して、基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語に親しむ一環として、関連図書や読み聞かせ、読み聞かせ後のクイズを取り入れ、読書に慣れ親しむ。 考えを発表するときに、理由とともに述べることを習慣付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く学習を継続的に取り入れ、文を書くことに対する抵抗感を少なくする。 読書学習司書に、授業との関連図書を用意してもらい、児童が、すすんで読むことができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">漢字の習得については、宿題として練習し、テストを行う際は、予告して行い、確実に直しを行うようにして、定着できるようにする。国語辞典を活用し、語彙や意味を調べる習慣を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none">俳句・短歌の学習を行い、短い言葉で味わい深い句はどのようなものなのかを理解させ、様々な題で、俳句や短歌を作る活動を取り入れる。作文活動では、「始め・中・終わり」の型を教え、長い文章を書いたり、発表したりする力を高める。「始め・中・終わり」や「起承転結」等、説明文・物語文の文章構成を抑えることで、内容の整理や中心の読み取りができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">日々の漢字の宿題を確認し、丁寧に添削することにより、うまく書けるようになった実感を味あわせる。グループ活動で話し合いや、書く活動を通して、学び合いや教え合いをしながら、児童相互の関係を築き、やる気につなげていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">漢字の学習は、授業や宿題などの家庭学習で毎日学習する時間をとり、読み書きの日常化を図っていく。言語についても、文章を書く際には、引き続き既習事項を関連付けながら指導していく。	<ul style="list-style-type: none">意見の相違点に着目して聞く力を育てるために、グループワークやディスカッションを通して、意見を交わし合う機会を意図的に仕組む。また、相手の自分の意見を比較したり、取り入れたりする課題を設ける。説明文の内容を読み取る力を育てるために、説明文の単元では、文章の構造を理解する時間をとったり、各段落の見出しを整理したりして、説明文の要点を把握する課題を設ける。	<ul style="list-style-type: none">文章を書く単元では、既習事項を振り返ったり、興味や関心を生かした課題を選択させたりして、文章を書くことの意欲を高めていく。書いた文章を発表する機会を設けたり、児童同士で添削する時間をとったりすることで、よりよい文章を書こうとする態度を育成していく。